

開催記録

名 称	令和元年度第2回会津美里町地域創生・人口減少対策有識者会議
開催日時	令和元年8月29日(木) 午後2時00分から午後4時00分まで
開催場所	会津美里町役場本庁舎 203 会議室
出席者	別添委員名簿のとおり 出席：9名 欠席：3名 事務局：政策財政課課長鈴木国人、参事小川良典、人口減少対策室室長渡部充、 係長国分政和、秋山拓也、みさと創生係長川田浩泰、 株式会社ケー・シー・エス 2名 計17名
議 題	会津美里町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略の平成30年度成果 検証について
資料の名称	会津美里町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略の平成30年度成果 検証について(資料1・2・3・4・5)
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
内容	
<p>1 開会(省略)</p> <p>2 座長挨拶(省略)</p> <p>3 協議(座長)</p> <p>(1) 会津美里町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略の平成30年度成果検証 について</p> <p>事務局より会議資料【資料1・2・3・4・5】に基づき説明。</p> <p>【基本目標1 本町における安定した雇用を創出する】</p> <p>(事務局) 会議資料に基づき説明。</p> <p>(座長) 只今、事務局より、基本目標1の説明があったが、質問等はあるか。</p> <p>(座長) ハイフンになっている6番の『地域の特性を活かした雇用の創出』というのは、評価 できないということだろうが、これは地域の特性を活かした雇用というのはやはり難 しいということか。</p> <p>(事務局) 総合戦略上は、新鶴にスマートICがあるのであの周辺に商業施設などを誘致できな いかということを検討する事業を行っていたが、事業の採算性や周辺市場への影 響、土地の問題等理由で、戦略としては撤退しようという結果となった。</p>	

- (座長) 相手あってのことということか。理由は理解できた。
- (委員) 質問というか確認だが、事業効果の評価指標の D について、本事業開始前より悪化した場合等とあるが、事業開始前とはどの時点をさすのか。
- (事務局) 資料 5 をご覧いただきたい。総合戦略が平成 28 年度に策定されたので、その前の年度の平成 27 年度以前に設定された目標、数値が基準ということになる。資料 3 にも基準値が記載している。ただ、実際の今回の評価ではその基準値との比較もあるが、平成 31 年度までの計画になっているので、あくまで評価は平成 31 年度の目標値に対する平成 30 年度の実績値を評価いただければと考えている。今年度の評価では当然基準値との比較も必要となってくると思っている。
- (委員) 平成 31 年度の目標値に対して平成 30 年度の実績値を評価するという事で承知した。
- (座長) 資料にある基準値というのは基準ではないのか。
- (事務局) 評価の ABCD の判定については、あくまでも最終年度、平成 31 年度の目標値に対して、今年度どの程度達成できているのかという評価をしている。
- (座長) そうすると D という評価は出ようがない。無くした方がいいのではないか。
- (事務局) 指標によっては当初の基準値と比較すると D 評価ではないかという事もあるが、まだ計画期間中ということもあるので、このような評価とさせていただければと思う。ただ、ここはもっと努力が必要であろうという点についてはぜひ忌憚なくご指摘をいただきたい。
- (委員) 資料 3 の基本目標に対する数値目標のところ、製造品出荷額が会津地区では 4.5% の減少に対して本町では 7.7% 増加している。この要因は何か。
- (事務局) 平成 30 年度の工業統計の結果によると町トータルで 108,839 万円増となっており、内訳としては食料品が 118,461 万円の増、プラスチックが 18,294 万円の増、窯業は 22,987 万円の減、業務用機械は 37,310 万円の減となっている。製造品出荷額の増加の大きな要因は食料品の伸びといえる。
- (委員) 農産物のブランド化と販路開拓・販売拡大に対する支援について、アンテナブースの商品点数の平成 30 年度の実績値が 10 点ということだが、資料 4 にある地域商社を中心とした商業ブランド確立事業の成果指標にある會美ブランド開発件数 7 件も含まれた数字か。
- (事務局) アンテナブースの方で農業関係のアンテナブースということで開設しており、こちらの方の品目が 10 品目ということで、こちらの會美ブランドというのはまた別になっている。こちらの 7 品目というのは地域商社ということで進めている事業があり、会津美里振興公社の方で実施しているものでそちらの商品開発件数が 7 品目ということである。
- (委員) 今後、會美ブランドとして開発されたものは。
- (事務局) そちらの方にも連携を取りながらということになっていくと思う。
- (座長) それはもともと目標が悪いのか途中の経過が悪いのかということなのか指摘したい点ではある。並べるだけなら並べられると思う。ところが農産物だからもともと 10 個

以上並べようということに無理があったのか、會美ブランドは農産物ではないから並べられないというもともとの定義がおかしいのか、最初の目標の設定が高すぎたのか、それに対する努力が足りなかったのかじゃないかと思うが。

(事務局) 基準値ということで平成 27 年度の数字なのだが、10 点ということでスタートしているのでそれよりも増やしたいということでの目標設定だったのだろうと思う。

(座長) ただアンテナショップに 10 種類以上農産物が並んでもなという気がする。だから目標設定に無理があったのかなと個人的には思う。

(事務局) 農産物の 6 次化に取り組んでいる農家数を増やしていく中で、アンテナショップの出品数も連動して増やしていこうという意図での目標であった。

(座長) 目標に対して増やしきれなかったということか。農家が新しいものを出せなかった。

(委員) 目標値についてこれで完成なのか、それともここからブラッシュアップしていくのが必要なかがあいまい。単純に現状において、評価が C だとしても、もうちょっと先を見据えてというのならこれは結果として C かもしれないが、今後さらにこれを継続して、施策を変換していくべきだろうと個人的に思う。

(座長) 目標値 15 品に対して実績 10 品ということで C 評価であるが、前年比では 3 品増えている。増えていることについては、政策の効果かはわからないが、引き続き増えたいけば良いと思うので、期待の意味を込めて C 評価としたい。

(座長) 成人式の企業ブースの出店数は C をつけているが、要因は何か。

(事務局) 成人式開催日がお盆の日で、当日は休業日の企業も多くあり、これが影響した。

(座長) もともと、成人式で就職活動をするわけではなくお祝いで来ているため、もともとの性質もある。これをいっては終わりだが、これについては、引き続き努力を見せれば良いところ。

基本目標 1 については以上としたい。

#### 【基本目標 2 本町への新しい人の流れをつくる】

(事務局) 会議資料に基づき説明。

(座長) 只今、事務局より、基本目標 2 の説明があった。質問等はないか。

(委員) 基本目標に対する数値目標の部分で観光入込客数の要因分析で、伊佐須美神社の入込客数の推計方法変更が大きく影響したとあるが、具体的にどのように変更したのか。

(事務局) 参拝者数をより正確に把握できるように見直したとのこと。

(座長) 会津若松市の鶴ヶ城はチケットを売るので客数を完全に把握できるが、飯森山は分からないため数値を発表していないという。より正確にするための見直しなので、ご理解いただければと思う。

(委員) 地域おこし協力隊についてだが、現在合同会社会津コシェルに協力隊がいるということだが、任期後はどのような予定か。

(事務局) 男性の隊員は就農、もう一人の女性の隊員はワイナリーに就職する予定となっている。9 月末で任期満了のためまだ任期中だが、2 名とも定住が見込まれている。

(委員) 資料 3 の「新たな魅力の創出による交流人口の拡大」の要因説明に、会津美里流体験

メニュー創出事業（モニターツアー）として実施はしていないとある。モニターツアーを実施する前提で計画を立てたのだと思うが、なぜ実施をしなかったのか。

(事務局) 総合戦略策定時は、移住定住コンシェルジュが設置されていなかった。コンシェルジュ設置後、どうしたら効果的かを改めて検討したところ、大人数に薄いサービスをするモニターツアーよりも、少人数の方に移住を体験していただくツアーを行った方がよりきめ細かく、濃い対応できるということで、移住体験ツアーに切り替えたところ。実際、ツアー参加者の中からNPO法人関山倶楽部で行っている「田んぼオーナー」事業に参加して下さる方が出たり、東京でイベントを開催した際に顔を出してくれる方が出たりと一定の効果は出ていると考えている。

(委員) と言うと、言い方は悪いがこの項目については捨てたということか。

(事務局) 事業の改善を行ったわけだが、その際に戦略を改定するという方法もあったかと思う。ただ、目指すところは一緒なので、事業の内容を変更する形で対応したところ。

(座長) 実際成果が出ているのは少人数相手ということで、何十人と集めようというのは難しかったということか。計画が少し大雑把すぎたのかもしれない。  
基本目標2については以上としたい。

### 【基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる】

(事務局) 会議資料に基づき説明。

(座長) 只今、事務局より、基本目標3の説明があった。質問等はないか。

(座長) 5ページの一覧表を見ると、A、Bがほとんどだが、ハイフンになっているところが、  
(1) 出会いと結婚の支援の部分だが、カップルが成立しても、結婚できなければ意味がないと思うが、相性があるのでしょうか。それから、安心して子育てができる環境についてはA評価だが、年度途中の待機児童を減らしたい中で結果は増えてしまっているということだが、質問等はないか。

(委員) 基本目標に対する数値目標の2番目、子育てしやすい環境のまちだと思ふ町民の割合というのは、どういう計算なのか。

(事務局) 町民アンケートというものを実施しており、回答者が子育て世代だけではなく、広い年代の町民全体の回答になると、76%という数値になるが、子育て世代だけにしぼってこの町で子育てしていきたいと思うかどうかは90%を超えているので、子育て世代から見ると、この町の子育て環境についてはかなり評価いただいているように思われる。

(座長) 当該階層である子育て世代は90何%という高い率。町民全体だと子育てに関わっていない方からの回答もあり参考数値に過ぎないため、むしろ指標としては子育て世代としたほうがよかったように思われるが、町民アンケートは全世代に聞いた場合の数値ということである。

他に質問等はないか。

(委員) 放課後児童クラブの待機児童について、30年度はこの程度だったのですが、年々増えている、今年度は外れた方も結構いるようである。あと、少子化のために子供たち

が家に帰ってきても遊び相手がないという問題がある。遊び相手がいないのでゲームをしてしまう。メディアコントロールを推進しているのに。今は国でも女性の社会進出や就労を応援しているので、対策を考えていかななくてはならないと思う。

(事務局) 首都圏との比較でも、待機児童の少なさは強みといえる。首都圏では多くの待機児童を抱え、保育園を作ろうにも場所がない等の問題があるが、美里町に待機児童はいませんと言えれば子育て環境に大きなプラスになるので、重要な点だと考える。

(委員) 保育料の件も美里町は力を入れている。放課後児童クラブは他の市町村は有料だが美里町は無料なので、その点は強み。子育て中の方への手厚い支援が、満足度の数値にも出てきていると思う。

(座長) 需要があるということが大変わかった。少子化が進んで兄弟や近所に子供がたくさんいる環境ではないので、放課後児童クラブに行く必要があるという中で、需要が増えているということ。比率はいいのだが、待機児童といった需要が増えているので、発展させるべき項目といえる。年度途中だと児童クラブに入るのは難しいのか。

(委員) 本郷、新鶴は分からないが、高田地区では人数が増えており児童館だけでは補いきれず、今の所は小学校の教室を使っている状況。最終的には17時以降は場所を移動させたり、利用を工夫しながらやっているが、施設の増というのは課題としてあげられるし、対策が必要になっていると思う。

(事務局) 場所と合わせて、スタッフなど人材確保も課題。保育士など子育てに関わる人材のニーズは高く、雇用創出にも繋がる分野だと考える。

(座長) 場所の確保は空き教室等で何とかなるが、あとは人材ということで雇用スタンスということと予算がかかるというのが課題ということが出てきた。今の待機児童の数であればいいが、今年度や今後のことを思うと、今後の重点政策課題であるという気が今の話を聞いていて思った。

(委員) これからの子どもたちを大事に育てていかないと、美里町の発展につながらないので、やはりそういったところを頑張ってもらいたいと思う。

(委員) 確認だが、資料3の5ページの(1)の①婚活イベントによるカップルの成立数、資料4の7ページ結婚・子育てコンシェルジュ事業の活動成果では婚活イベントによって4組のカップルが成立したとあるので、資料3ではイベント外のカップル成立も入れて8組という理解でよいのか。

(事務局) 町が去年実施した婚活イベントについてだが、8月に「mis@to コン」という商工会で企画したイベントがあり、これで2組できた。

(委員) 別なイベントということか。

(事務局) 内訳としては、コンシェルジュでイベントを2回開催し各2組のカップル、秋にワシントンホテルで「みさとーく！」というイベントをふくしまFMにお願いして実施し、2組成立した。男女比がよかったのは、「みさとーく！」だけだったということが課題である。

(委員) 「みさとーく！」というのは町のほうと連携して開催したのか。

(事務局) ふくしまFMに依頼してイベントをやってもらい、女性に人気な占いやネイルなどち

よっとした楽しみをつけながら、出会いの場を作ったというものである。

(座長) 企画というか、女性が喜ぶものをつける工夫を行ったと。こういったイベントを細々と積み重ねた結果 8 組のカップルが成立したということか。

(事務局) ちなみに今の 8 組だが、資料 4 でいくと先ほどの 7 ページの結婚・子育てコンシェルジュの成果のほうで 4 組、その下の婚活推進事業の方で 4 組ということで合計 8 組となっている。

(座長) 他に意見等はあるか。

ちゃんと成果を上げているところで、引き続き良い成果を上げられるように地道に頑張っていたらいいと思う。基本的には効果があるということだと思う。

基本目標 3 については以上としたい。

#### 【基本目標 4 時代に合った安全安心な地域をつくる】

(事務局) 会議資料に基づき説明。

(座長) 只今、事務局より、基本目標 4 の説明があった。質問等はないか。

(座長) C 項目に関しては、集落支援員が増やしきれなかったということと、特定空き家の認定が進まないということだった。

(座長) 6 ページの 7 割を超えたというのは、53%という目標に対して 49.8%という数値が 7 割を超えているということか。

(事務局) アンケートの数字で、目標値の 54%に対する実績値の割合ということで 7 割を超えているため、評価が B となっている。

(座長) 47%から 54%の差分の 7 割ということか。

(事務局) そのとおりで、目標値に対するアンケート結果の割合となる。

(委員) 特定空き家の解体件数について、資料 4 の 12 ページの活動成果について、現在特定空き家等に認定されている家屋全ての除却が完了したとあるが、これは全ての空き家を調査したうえで認定において特定空き家というものについて全て対応完了しているという理解でよろしいか。

(事務局) 特定空き家として調査して認定したものが 5 件あり、それについては、全てその所有者や管理者に自主的な解体をしていただき全部除却されている状態である。

(座長) 空き家等数が 500 件あるわけで、それが無いというかたちには至っていないということか。それが難しいところである。空き家というのと特定空き家は違うわけで、危険なものは特定空き家でそれについてはやりましたということか。

(事務局) 町中にも危険がせまっているという空き家というのは実際には存在し、町でも特定空き家として認定したい思いはあるが、所有者を特定しないことには認定できない。所有者に解体をお願いしなければいけない。その前段階で、所有している空き家が危ない状態なので適切に管理してくださいというところから始めないといけない。いきなり認定というわけにはいかず、今、町も、税や戸籍情報を特措法に基づいて調べられるようになったので、対策としてはしているのだが、実際 20 年も 30 年も前に空き家になっているところになると、息子さんお孫さんがどこにいるのかを探し始め、所

有者の特定に難航しているというところで認定がなかなか進んでいないというのが状況である。そういった意味では町民の方に危ない思いをさせてしまっているというのが現状である。

(座長) 認定されていない危険空き家の無責任な所有者は、当然固定資産税も何も納められていないという状況なのか。

(事務局) 管理者がいればそうとは限らないが、まったくもって誰のものだか誰が管理しているかわからないとなるとそうなる。固定資産税を払ってあげればその人に話ができるが。

(座長) 言う人がいないと税金もかかっていないということで、難しい話である。

(委員) 要因分析の書き方のところで、Cということで、予定以上に進まなかったためというだけだと結局やっていないと思ってしまうので、それだと評価したうえで現時点で対応できることは対応済みだということで、ここに書けると、評価としては実態に合った文章になるのかと思う。

(座長) やれることはやっているのだけれども、あと、努力といえば努力なのか所有者の特定に関して言えば事情は分かった。

(座長) 他に意見はないか。

(委員) 集落支援員のことだが、私も実際に支援していただいて色々活動しているが、これからは官民が一体となって協働で進めていくことが大事だと考えている。そういった分野に、もっと人数増やして活動が活発になったほうがいいのかなど思っている。私も退職してからそういった活動をしていくなかで、そういった種類の集まりに行くと、そういった志の方がたくさんいる。これからは官民一体で色々な事業とか行事、イベントなどを進めていくことが、地域活性になるのかと思う。

(事務局) 町長は常々、美里町は四輪駆動だと言っている。町民、役場、議会、経済団体がスクラムを組んで動きましようということ。地域の活動を支える主体というの、昨年NPOや地域団体の活動を支える「まちづくりBプラス」という組織が出来たし、集落の活動を応援する集落支援員2名が活躍している。また、今年からは自分たちの力で頑張っていこうという団体を補助する制度を創設した。人口が減っていく中、役場の職員も減ってきている。役場だけですべて賄うことができない社会が既に来ているので、町民の方々とタッグを組んで次の5年を考えることが非常に重要なことだと考えている。

(委員) 連携によって、あと色々な健康増進やら、そういった全てのものに関わるんじゃないかなと思うのでよろしくお願ひしたい。

(座長) そういった部分で期待できるということだが、「旭ねっばす」のねっばすとはどういった意味か。

(事務局) ねっばすとはこちらの方言で、「繋ぐ」「結びつける」といった意味である。

(委員) 質問ではないが、(5)の「文化財を活用した地域づくり」で評価はAである。先般の法用寺の御開帳には多くの方が訪れていた。中をはじめてみて素晴らしい建物だと関心したところであり、町には素晴らしい文化財がたくさんあるので是非PRや活用を図って欲しいと思う。

(事務局) 今年の3月に町のほうで「歴史文化基本構想」を策定し、教育委員会でもそれを今後どのように活用していくかというステージに入っている。

(座長) その他に質問はないか。

(座長) ないようなので、これで基本目標1から4までの成果検証については終了とさせていただきます。

#### 4 その他

- ・ 9月下旬に町民ワークショップを3地域で実施予定。
- ・ 次回からは次期計画についての審議を行う。11月ごろの開催を予定。

#### 5 閉会

以上、開催記録として報告します。